



東京防災公式キャラクター
「防ちゃん」

ぜ き ま え 防 災

第6号の発行にあたり

今回は発災時の行動で注意すべきポイントをお伝えして参ります。災害全般に広がってしまうと大変なので、関前地区でおきるかもしれない地震や台風、内水氾濫を中心にまとめました。職場や学校、ショッピングなど市外で被災した場合などは状況も異なってくるので、ここにはまとめることができませんでしたが、大事なものは日頃よりこうした情報に目を通しておいて「もしも」の場合に備えるということですね。

災害時に守りたい幾つかの注意事項

地震の場合

■家電品のスイッチを入れる前に注意すること

今のガスメーターは震度 5 程度以上の地震を感じた場合に自動的に止めてくれます。復帰ボタンを押せば元に戻りますが、このときガス漏れに注意をしてください。もしもガス臭い場合にはガス漏れの可能性があるため、ライターやマッチはもちろん家電のスイッチに触れてもいけません。また、地震で倒れたままの電気ストーブや断線したコードによる通電火災の危険があるので、家電品のスイッチをすべて切ってからブレーカーを上げましょう。

■エレベータを使って避難しない

大地震の発生後は高い確率で余震が発生します。地震が発生し、ビルやマンションから避難する場合、早く安全なところに逃げたいという気持ちに駆られエレベータを使用したくなりがちですが、絶対に使用せず階段で降りることが重要です。

※エレベータ乗車中に大地震が発生した場合

閉じ込められてしまった際は、まずインターホンや非常ボタンを押して、管理センターへ連絡。通じない場合は、携帯電話で消防・警察へ通報。

■避難に車は使わない(関前地区という前提で)

地震の場合の避難方法は「原則徒歩」を推奨しています。これは、緊急車両の通行の妨げになるおそれがあることに留意しています。

※自動車を運転中に大地震が発生した場合

車を置いて避難する場合は、エンジンキーは付けたまま、ドアをロックせず、貴重品を持って避難しましょう。これは、車が緊急・救援車両の通行の妨げになったとき、すぐに移動できるようにするための対処法です。

台風・内水氾濫の場合

■建物内で通り過ぎるのを待つ

マンホールや側溝のフタが開いているのに気づかず落ちてしまうケースも多くあるため、雨が降っているときは近づかない。また、屋根の補修は台風が過ぎ去ってから行う(近づく前に済ませておく)

■窓を開けない

暴風の最中に窓を開けると、気圧差でガラスが割れたり、強風によって天井や屋根が吹き飛んだりする恐れがあります。窓は絶対に開けないようにしましょう。万が一、破損してしまったときは、反対側の窓を少しだけ開けて、風を通り抜けさせましょう。

■エレベータは使わない

暴風によって送電線が切れ停電になることもあるため、閉じ込められないようにエレベータの使用は極力避ける。

■切れた電線には近づかない

切れたり垂れ下がっている電線には、電気が通っている場合があり、感電の危険があります。近づかず、絶対に触らないこと。

■アンダーパスには近づかない

アンダーパスとは、立体交差で鉄道や道路の下を通る掘り下げ式の地下道のことですが、車は 30cm 程度の冠水でもエンジンが動かなくなり、それ以上冠水すると、ドアが開かなくなったりするので、これまでも事故が多発しています。絶対に近づかないようにしましょう。

